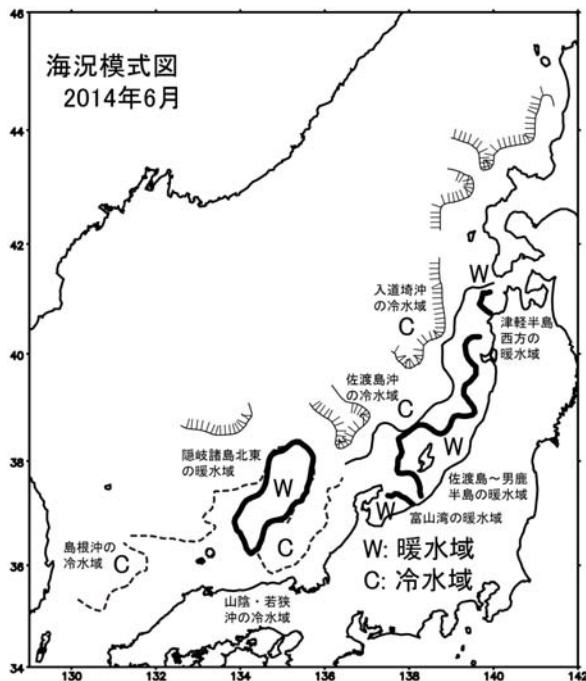


平成26年度 第2回 日本海海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成26年7月～9月)のポイント

- ・ 対馬暖流域の表面水温は、“かなり高め”で経過する。
- ・ 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。



2014年7月～9月の海況

- 隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ停滞する。
- 富山湾の暖水域は、やや北東に移動して佐渡島西方に分布する。
- 佐渡島～男鹿半島の暖水域は、岸沿いに北上しながら弱体化して男鹿半島西方に分布する。
- 津軽半島西方の暖水域は、津軽海峡を通過して消滅する。
- 島根沖、山陰・若狭沖、佐渡島沖の冷水域の張り出しは、平年並み。
- 入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。

問い合わせ先

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

担当：関根、檜山

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>

平成26年度 第2回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2014年7月～9月）

- (1) 隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ停滞する。富山湾の暖水域は、やや北東に移動して佐渡島西方に分布する。佐渡島～男鹿半島の暖水域は、岸沿いに北上しながら弱体化して男鹿半島西方に分布する。津軽半島西方の暖水域は、津軽海峡を通過して消滅する。
- (2) 島根沖、山陰・若狭沖、佐渡島沖の冷水域の張り出しは、平年並み。入道埼沖の冷水域の張り出しは、やや弱めで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“かなり高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”で経過する。

2. 経過（2014年3月～5月）

- (1) 3月に隠岐諸島北方と能登半島西方にみられた暖水域は、4月に合体して、5月には隠岐諸島北東に分布（推定）。3月に佐渡島北方にみられた暖水域は、北北東に移動して5月には男鹿半島南西に分布。3月に艫作崎沖にみられた暖水域は、ゆっくり北東に移動して5月には津軽半島西方に分布。4月に能登半島東方～佐渡島周辺に暖水域が形成されたが、5月には弱体化して能登半島東方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、3月はやや大きく接岸状況は平年並み、4月は規模は平年並みでやや接岸、5月はやや大きくやや接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、3月は規模は平年並みでやや接岸、4月は規模・接岸状況とも平年並み、5月は規模は平年並みでやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、3月はやや大きくかなり接岸、4月と5月は規模・接岸状況とも平年並み、入道埼沖の冷水域は、3月は規模は平年並みでやや接岸、4月はやや小さくかなり離岸、5月はやや小さく接岸状況は平年並み。
- (3) 対馬暖流域の表面水温
3月は、隠岐諸島～丹後半島、佐渡島周辺、男鹿半島～津軽半島の沿岸域で“やや低め”～“かなり低め”、沖合域で概ね“平年並み”。4月は、隠岐諸島以西の山陰沿岸で“やや高め”、能登半島西岸、富山湾、渡島半島西方で“やや高め”～“かなり高め”以外は概ね“平年並み”。5月は、隠岐諸島周辺、富山湾で“やや高め”、佐渡島～男鹿半島沖で“かなり高め”～“はなはだ高め”以外は概ね“平年並み”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、3月は日本海西部・北部ともに“平年並み”。

3. 現況（2014年6月）

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北東、富山湾、佐渡島～男鹿半島、津軽半島西方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模・接岸状況ともに平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模は平年並みでやや接岸。佐渡島沖の冷水域は、規模・接岸状況ともに平年並み。入道埼沖の冷水域は、規模は平年並みでかなり離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、隠岐諸島以西の山陰沿岸、能登半島西岸、佐渡島北西で“平年並み”、北海道西岸で“やや低め”～“かなり低め”以外は概ね“かなり高め”～“はなはだ高め”。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部・北部ともに“やや高め”。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| “はなはだ高め(低め)” | : 約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ(低さ) |
| “かなり高め(低め)” | : 約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ(低さ) |
| “やや高め(低め)” | : 約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ(低さ) |
| “平年並み” | : 約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

| | |
|--|--|
| 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場 | 福井県水産試験場 |
| 地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所 | 京都府農林水産技術センター 海洋センター |
| 秋田県水産振興センター | 兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター |
| 山形県水産試験場 | 鳥取県水産試験場 |
| 新潟県水産海洋研究所 | 島根県水産技術センター |
| 富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 | 山口県水産研究センター |
| 石川県水産総合センター | 一般社団法人漁業情報サービスセンター (取りまとめ機関) 独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 |